

た。

ハラモトヨシ 原元良 通稱五郎左衛門。九左衛門の子。大坂再役に敵首一を獲た。その職は御先簡頭から御馬廻頭に進み、その祿は三百石から千三十石に進んだ。承應二年歿。

ハラモトヨシ 原元慶 通稱助左衛門。九左衛門。號を貞桂といひ、所居を儲香亭といふた。元寅の子。祿八百八十石を領し、大小將に班し、大小將番頭から漸く進んで御馬廻頭に至つたが、延享三年請うて之を免ぜられ、寶曆四年六月朔日歿した。享年七十四。元慶は殊に和歌に工であつた。

ハラヤササダ 原保定 通稱清左衛門。元祿九年父儀兵衛の遺知七百五十石を襲ぎ、寶永七年大小將番頭より次第に昇進して享保九年二百石を加へ、遂に御小將頭に至り、寛保二年四月廿一日六十六歳を以て歿した。

ハラヤムシミツ 腹止清水 石川郡西倉新保に在る。腹痛の時之を飲めば治するとして、里民はらやむ清水と名づける。
ハラヨソエモン 原與三右衛門 前田利長に仕へて二百石を領した。その嫡系は八代永左衛門定次二百石を受けたが、文政十一年七月八日出奔して斷絶。支系も亦六代虎之助早世して斷絶した。

ハリウチ 針打 藩政の頃正月に行はれた幼童の遊戯。大きな縫針に木綿糸を通し、そのめどに近い方に大豆二粒を刺したものを以て、方四寸位の紙又は煎餅を重ねたのを打ち、針で釣上げられただけを自分の所得とするのである。針の打ち方は、木綿糸を持ち、針の先を口に含んで逆に投げるやうにし、大豆の重量で刺さるのである。又別にたから物など

に數を記した繪紙があつて、それを針で打ち當てた數だけ、菓子その他の賭物を得る方法もあつた。

ハリセイシヨ 張清書 寺子屋ではその就學する児童に、春秋二回張清書を行ひ、階級を進めしめた。張清書は各級毎に一様の文字を選び、三日間に亘つて練習し、第四日に至り嚴重なる監督のもとに清書せしめ、壁上に貼布展観するをいふのである。

ハリセイボ 針歳暮 藩政の頃十二月八日を針歳暮といひ、家々に團子の小豆汁をつくり、婦女は午後の裁縫を休み、針箱を整理して之を供へた。仕立屋・疊屋なども業を休んで酒宴を張る。此の日天氣の荒れることが多いので、針歳暮荒れといはれた。又この日針千本(魚虎)を家の入口に吊すものもあつた。

ハリタコ 張蛸 ↓ヒダコ 干蛸。
ハリツケ 磔は親殺・主殺・夫殺・子殺・放火・殺人強盜・十村にして隠田を企てた者。清僧の住持にして女犯の者・病馬を遺棄した者・徒黨を企て、人家を破壊した者・博奕に基づいて相手を殺した者・他人の妻と出奔した僧侶等に科せられ、特に放火・殺人強盜犯の如きは、市街を引廻した後磔刑に處する例であつた。磔刑は元祿頃から後に於ける生命刑の最も重いものであり、郊外の仕置場での處刑を公衆に示し、數日その儘に放置した。この刑は、國主にあらざれば執行するを得なかつたので、富山・大聖寺二藩の如きは、磔柱を低くし、之を地磔と稱した。

ハリミチ 針道 石川郡中興郷にある部落。村名の針道は聖道の義なるべく、萬葉十四に信濃道者伊麻能波里美知といふものはである

と加賀志徴には論じてゐる。大正十年來同と合併して中ノ郷と稱することにした。

ハリヤマ 針山 羽咋郡邑知院内志雄庄に屬する部落。
ハリヤマチ 針屋町 金澤の舊町名。玄哲町の後。町をいふ。文政四年二月郡地のケ所を金澤奉行の裁許に移した時、石坂村領のうち川より未は針屋町、川より西は石坂川岸と町の境を立てた。

ハリヨウイン 巴陵院 大聖寺藩主第九代前田利之の子利建の法號。詳しくは巴陵院月珊瑚慧光禪童子。
ハルエオウ 春枝王 承和十年正月能登守となつた。當時能登國累年荒廢し、百姓煩擾したが、春枝王の任に就いて三年に及ぶ比、漸く興復して綏安なることを得た。乃ち上請して定額大興寺を以て國分光明寺としたとある。國史の記する所此の如くであるが、これには聊か誤がある。何となれば能登の國分寺が創立の官符を得たのは、夙く春枝王蒞任の年の十二月に在るからである。

ハルキ 春木 鹿島郡一書庄に屬する部落。能登名跡志に『春木村とてあり。此村に春木齋藤というて郷士の館跡あり。今は一向宗林照寺の屋敷也。』とある。
ハルキヤマ 春木山 白山山麓の農民が、春山に林木を伐採する作業をいふ。その時期は深雪の融解し、しかも楯によつて運搬し得べき陽曆四月初から開始せられる。

ハルケンチ 春檢地 ↓ケンチ 檢地。

ハルゴマ 春駒 藩政の時、正月初に来た藤内の物貫ひである。柄を附けた馬首を右手に、鈴を左手に持ち、兩手に赤い木綿の手綱を引いたものである。

ハルサハノフビト 春澤史 續日本後紀承和三年三月辛酉に『能登史生馬史眞主。近衛同姓眞主等。賜春澤史。其先百濟人也。』とある。眞主等或は能登人であらうといふ。
ハルタ 治田 寛治三年十月二日加賀守の醍醐座主勝覺に宛てた奉免狀に、大野郡得藏保高羽・治田とある。大野郡が加賀郡(後石川郡)大野郷の誤であることは勿論だが、治田の地は今明らかでない。

ハルタカチ 春田鍛冶 春田細工ともいふ。元和中金澤に下つた成井勝光の傳を受けて胃を製作すること、勝光は春田氏とも稱したからであり、次代勘助以後世々相繼いだ。また慶安五年七月會所横目の言上書に、會所に有之古鏡當夏拂方に付、はるたや勘七・新七兩人能越直段付をしたとあつて、この勘七は金澤堅町に居た春田鍛冶の初代である。その他卯辰妙正寺の過去帳に、春田久佑祖父寛文七年八月十八日歿、春田久佑父久右衛門元祿七年八月十三日歿、春田久兵衛父久佑寶永四年十月十六日歿等とあり、金澤町會所留記文政十四年に森下町春田久之丞、享和三年に堅町春田久兵衛の名が見え、久兵衛の孫に勘七があつた。是等は皆春田鍛冶であらう。

ハルタカツミツ 春田勝光 ↓ナルキカツミツ 成井勝光。
ハルタザイク 春田細工 ↓ハルタカチ 春田鍛冶。

ハルタシヨウジ 春田小路 金澤里見町か